



いわ けい いち
岩 脇 圭 一

いっ しん かい
一 津 会

ヘルプマークの普及・啓発に関する考え方は

問 ヘルプマークは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている障がいのある方や病気の方などが、日常生活や災害時などで困ったときに周囲に示し、支援や理解を求めやすくするマークである。

10月1日より津市の窓口でヘルプマークを表示したストラップの配布が始まるが、普及・啓発に向けた考え、取り組みは。

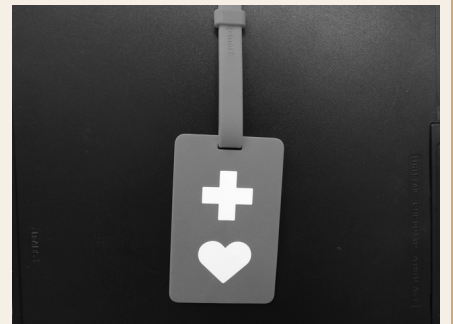
答 三重県では今年の6月27日からヘルプマーク(ストラップ)の配布を始めており、市町では県からヘルプマークの提供を受け、10月1日から配布予定である。

このヘルプマークの取り組みについては、外見から分からなくても援助や配慮が必要な障がいのある方や病気の方等と支援ができる方を結ぶ大切なコミュニケーションツールの一つであると考えている。

ヘルプマークの趣旨について理解が得られるよう、市ホームページへの掲載や障がい福祉課の窓口で配布している「障がい福祉のてびき」への掲載、ポスターの掲示、各種イベントを通じて、積極的に情報の提供に努め、周知を図っていく。

●その他の質疑・質問●

- 「保育所保育指針」について
 - 改正の主要な点について
 - 乳児保育について
 - 子育て支援について
 - 健康と安全について
 - 外国籍の児童の保育について
 - 研修及び人材の育成について
- 要配慮者利用施設(福祉施設)への避難確保計画作成について
 - 現在の取組状況は
 - 訓練等の取組支援を



▲10月1日から配布開始のヘルプマーク(ストラップ)



りゅう じん けい すけ
龍 神 啓 介

しみん
市民クラブ

久居駅周辺のエリアマネジメントの考えは

問 津市久居アルスプラザの建設をきっかけに、久居駅と久居中心部の動線上にコンパクトでにぎわいのある街を再興することはできないか。活性化という観点から見て、各地区のさまざまな課題に対応する公民連携のエリアマネジメントが重要であると考えているが、日本版BID制度など国の法整備を勘案しつつ、行政はどのように地域活性化に関わっていくのか。

答 久居アルスプラザの供用開始に伴い、同施設を利用される久居駅の乗降客の増加が見込まれるとともに、利用者の方の食事、買い物、休憩の場として商店街に足を向けて回遊していただけるように、施設と地域との相互の動線に配慮することで、商店街のにぎわいを図ることができると考えている。

昨年度、久居商店連盟との間で商店をはじめとする地域の皆さまと行政が協働して、どのような取り組みを進めるべきかの意見交換会を行った。

今後、その中での課題等を洗い出し、関係部署とともに検討会を立ち上げ、関係者の方々の機運の高まりの中で、日本版BID制度などの手法も検討しながら、引き続き、この地域の活性化に向けて取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 新学習指導要領について
 - プログラミング教育
 - 主体的対話的で深い学び
 - カリキュラム・マネジメント
- 教員支援員の配置について
- コミュニティ・スクールの現状と方針について
- 三重短期大学における実践的な学び直しについて



▲これからの久居駅周辺の活性化に期待